



信州・青木村ふるさと景観100選

棚田の春(入奈良本)

AOKI 青木村 議会だより

第53号
平成26年5月1日発行



発行／青木村議会
編集／議会報編集委員会
印刷／(株)アオヤギ印刷

青木村議会へアクセス E-mail: gikai@vill.aoki.nagano.jp



青木小学校入学式



青木村保育園入園式



青木村議会だより
第53号

平成26年第一回定例会	2
平成26年度予算	4
常任委員会報告	5～8
一般質問	9～14
本会議討論・特別委員会	15
議会の動き・第7回村づくり懇談会	16～17
議会日誌・住民の声	18

平成二十六年 第一回定例会

平成二十六年第一回定例会が、去る三月六日に招集され十四日までの会期で行われました。議案は名誉村民の推挙、条例制定・改正、上田地域広域連合ふるさと基金にかかる権利の一部放棄、平成二十五年一般会計・特別会計補正予算、平成二十六年一般会計・特別会計予算と請願一件、陳情二件で、慎重審議の結果、すべての案件について原案のとおり可決・採択されました。また、一般質問では、六人の議員から村政に対する意見や質問がなされました。

村長あいさつ (要旨)

平成二十六年第一回青木村議会三月定例会を招集いたしましたところ、全議員のご出席をいただきました。

二月にはソチオリンピックも開催され、三月には村からも上田広域連合を通して財政支援しました佐久総合病院医療センターも業務を開始しました。

村では、青木村観光サポーター倶楽部が当初目標の千人を大きく超え千八百八十人となり、ふるさと納税も目標の百万円を超え百五十七万八千円となりました。国道一四三号青木峠新トンネル村民会議を設立し引き続き大きな運動となるよう努めていきます。

二月十四日降り始めた記録的な大雪は人的な被害はなかったものの交通やビニールハウスの

倒壊等の影響が出ましたが、村としても救援し、対応していきます。

二十六年度の予算について、一般会計で二十六億三千二百五十万円、前年比十・一％増、また、特別会計と企業会計の合計は、十八億三千二百五十万三千円で七・三％の増となりました。

このような大型当初予算となりましたのは、ふるさと公園（仮称）など大型の新規事業が主な要因です。

防災機能を備えた公園整備や、消防・農業・商工・福祉など二十一項目の事業を計画しております。

平成二十六年予算については、村の財政力の脆弱な状況の中ですが、限られた財源を有効

かつ合理的に活用し、住民の皆さんの声を反映し、将来を見据えて努めてまいります。

地域活性化では定住促進の取り組み、少子化対策では婚活や子育て等の一環した体制づくりを村全体で応援します。

食堂、体験館及び道の駅の運営は、あおき農産物直売所運営組合へ事業委託します。

二十六年事業計画の主な項目は、役場の組織改正で四課一室体制とし、地域包括支援センターを住民福祉課内に置き、総務課内に事業推進室を新たに設けます。

また、土木事業の推進のため土木技師の採用もします。

五期二十年間青木村村長を務めた宮原毅氏は、国の指導による平成の大合併に抗して、自



中学校体育館改修



小学校体育館屋根への太陽光パネル設置



青木村観光センターは指定管理者制度に移行

議案

議案第一号

青木村名誉村民の推挙について

前村長宮原毅氏に名誉村民の称号をお贈りするものです。

議案第二号

特別職の職員で常勤のもの等の給与に関する条例の一部を改正する条例

村長の給料月額を十二％、教育長の給料月額を二％、平成二十七年三月まで引き続き

主・自立の方針を選択し、役場庁舎、図書館、各地の地域交流センター等の新築やラポートあおきの特養の誘致などを行い、村の発展の礎を築かれた実績は、青木村名誉村民にふさわしいと考え今議会で推挙の議決を提案させていただきます。

減額するものです。

議案第三号

課設置条例の一部を改正する
条例

営業利益分を後年の機器更新に充てるため、基金を設け積立を行うものです。

議案第四号

青木村議会委員会条例の一部を改正する条例

議案第九号

おおきふるさと体験館・農産物直売所の設置及び管理に関する条例の全部を改正する条例

機構改革に伴い、「総務課」を「総務企画課」に変更し、「税務会計課」を新たに設けるものです。

議案第十号

青木村観光センターの設置及び管理に関する条例の全部を改正する条例

議案第五号

青木村税条例の一部を改正する条例

道の駅おおき関連施設の一体的な管理を行うため、指定管理者制度に移行する条例を整備するものです。

議案第六号

青木村国民健康保険税条例の一部を改正する条例

国の法律改正に伴い、条例の一部を改正するものです。

議案第十一号
若者定住促進住宅設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例
近年の社会情勢を踏まえ、入居要件の年齢を四十五歳から五十歳に引き上げるものと、用語の整理を行うものです。

議案第七号

青木村特別会計条例の一部を改正する条例

当面事業の予定がないことから、青木村地域開発事業特別会計を廃止するものです。

議案第八号

青木村情報通信関連事業基金
条例

条例中の用語の整理を行うものです。

議案第十三号

青木村地域優良賃貸住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例

国の法律改正に伴い、村営住宅と同様の整備基準を設けるものと、用語の整理を行うものです。

議案第十四号

青木村簡易水道条例の一部を改正する条例

議案第十五号

青木村公共下水道条例の一部を改正する条例

消費税率の引き上げに伴い料金の改定を行うものです。

議案第十六号

青木村地域包括支援センターの設置に関する条例の一部を改正する条例

医療・介護、福祉・保健衛生のサービスを一カ所で行うため、地域包括支援センターを、ラポートおおき内から役場住民福祉課内へ移設するものです。

議案第十七号

青木村社会教育委員設置条例の一部を改正する条例

国の法律改正に伴い、社会教育委員の委嘱基準を村で独自に定めるものです。

議案第十八号

上田地域広域連合ふるさと基金に係る権利の一部を放棄することについて

上田地域広域連合ふるさと基金に対する村出資総額五千六百二十九万六千円のうち、上小医療圏地域医療再生計画に係る継続事業に充当するため、二百五十万八千円の権利を放棄するものです。

議案第十九号

平成二十五年度青木村一般会計補正予算について

歳入歳出それぞれ四千七百八十九万二千円を追加し総額を二十六億五千八百三十四万八千円とするものです。歳入の主なもの、地方交付税一千八百二十三万一千円、増、国庫補助金九百六十一万九千円の増、村債一千八百五十万円の増などで、歳出では、簡易水道建設特別会計への繰入金五百万円、中学校体育館の防災機能強化工事請負費二千六百五十万円の増などが主なもの、です。

議案第二十号

平成二十五年度青木村国民健康保険特別会計補正予算について

歳入歳出それぞれ二十万円を追加し、総額を五億七千五百三十三万六千円とするもので、診療報酬給付費の増に伴うものです。

議案第二十一号

平成二十五年度青木村簡易水道特別会計補正予算について

歳入歳出それぞれ六百十七万二千円を追加し、総額を一億二千三百五十二万七千円とするもので、歳入は受託工事収入二百五十六万一千円の増と、歳出では弘法水源等修繕料二百六十万円、洞・西立谷橋架替工事に伴う本管布設替工事三百三十二万三千円が主なもの、です。

議案第二十二号

平成二十五年度青木村簡易水道建設特別会計補正予算について

歳入歳出それぞれ五百万円を追加し、総額を一億二千七百八十七万二千円とするもので、歳入は一般会計繰入金、歳出は、統合整備事業に係る新市ノ沢浄水場から沓

掛地区への配水管工事の増額
四百五十万円、白川水源から
の取水補償費五百万円の増
が主なものです。

議案第二十三号

平成二十五年青木村特定環
境保全公共下水道事業特別会
計補正予算について

歳入歳出それぞれ六百三
十七万八千円を追加し、総額
を二億八千三百七十二万五
千円とするもので、歳入は、
繰越金六百十一万八千円が
主なものです。歳出は、積立
金三百万円。洞地区橋梁架
替工事に伴うマンホールの嵩
上工事百八十六万六千円が
主なものです。

議案第二十四号

平成二十五年青木村介護保
険特別会計補正予算について

歳入歳出それぞれ二十九
万五千円を追加し、総額を五
億七千七百七十二万五千円と
するもので、歳入は、前年度
繰越金、歳出は、システム改
修委託料が主なものです。

議案第二十五号

平成二十六年一般会計予算
から議案第三十二号 平成二
十六年度青木村後期高齢者医

療特別会計予算（下記別表参照）

一般会計予算の主な事業
としては、社会資本整備総合
交付金事業としてふるさと公
園（仮称）の整備及び道路の
舗装改良、橋梁架替工事（継
続事業）、小学校体育館屋根
へ太陽光パネルの設置、中学
校体育館改修事業などが計
画されており、前年度当初予
算費十二・二％増の予算とな
りました。

請願・陳情

三月定例会に提出された請
願・陳情は次のとおりです。

請願第一号

ＴＰＰ（環太平洋戦略的経済連
携協定）交渉に関する請願
全員賛成により採択

陳情第一号

労働者保護ルール改悪反対を
求める意見書の採択を求める
陳情書

賛成多数により採択

陳情第二号

「過労死防止基本法の制定を求
める意見書」採択を求める陳情
賛成多数により採択

平成26年度予算 一般会計・特別会計合計予算規模 (前年度比9.1%増)

総額 44億2,598万1,000円

会計名		歳入・歳出予算額(円)	対前年度増減率
一 般 会 計		2,632,500,000	10.2%
特別会計	国民健康保険特別会計	560,710,000	8.4%
	簡易水道特別会計	114,012,000	1.5%
	簡易水道建設特別会計	185,339,000	50.8%
	別荘事業特別会計	18,158,000	3.9%
	地域開発事業特別会計	0	△100.0%
	特定環境保全公共下水道事業特別会計	274,508,000	△1.0%
	介護保険特別会計	585,654,000	2.5%
	後期高齢者医療特別会計	55,100,000	11.5%
総 合 計		4,425,981,000	9.1%

事業概要		予算金額(単位: 円)
平成26年度 主要事業	ふるさと公園(仮称) 整備、道路舗装改良	249,000,000
	橋梁架替工事(継続事業)	33,000,000
	グリーンニューディール基金事業(小学校体育館屋根へ太陽光パネル設置)	26,500,000
	中学校体育館改修事業	15,000,000

常任委員会報告

総務建設産業委員会

平成二十六年第一回青木村議会定例会議で、総務建設産業委員会に付託された案件、質疑、答弁は次のとおりです。

尚、委員会審議は三月十一日に行われました。

議案第二十五号

平成二十六年度青木村一般会計予算について

村民税の減収動向について

税務係長答弁

人口減少傾向にある中、税収も減るものと思われるが、前年度実績を勘案し若干厳しい税収を策定した。

軽自動車税の改定に伴う税収見込みについて

税務係長答弁

軽自動車各々の条件によ

って細かく内容が決められており、それらを勘案しおおよその計算で増収見込みとなる予想。

入湯税が以前の半額ぐらいになっているが

村長答弁

観光客は減ってきている、ええところ村、埼玉県の伊奈学園、教育関係の視察等を利用してもらうよう努めている。

ふるさと納税の状況について

村長答弁

当初百万円計上していたが、すでに現在百六十七万円あり大変効果があった。もっとPRしていきたい。

村営バスの運行について

総務企画係答弁

利用者は前年より増加しているが、路線によつては減っている所もある。利用者の高齢化、路線、曜日別、ダイヤ等の検討見直しを行っていく。

太陽光発電システムの導入について

総務企画係答弁

今回小学校体育館の屋根への設置は、小学校の電力分を賄うもの、又避難所としての使用時に、使えるようにする。売電は考えていない。

有料道路通行料負担軽減事業補助金について

総務課長答弁

二十六年度の新しい事業、三才山、平井寺、新和田の各トンネルと白馬長野有料道路の通勤時間限定で朝夕半額補助するもの、県二割、



ふるさと納税者に送られる特産品



国道143号青木峠

村一割、道路公社二割負担する。

有害鳥獣駆除柵の状況について

産業観光係長答弁

二十六年度は沓掛地区二・五キロ、下奈良本地区二キロ、弘法地区二キロの予定。

観光事業推進協議会の補助金について

産業観光係長答弁

受入態勢の整備、モデルコースの設計、ツアーの企画、パンフレットの作成、ガイドの教育等に考えている。

住宅リフォーム補助金について

産業観光係長答弁

新しい補助金で、上限二十万円、又は工事費の二十%限度、村内業者が条件、外構工事は別、今迄の福祉的なものはそのまま残す。

道路補修工事費前年度より減っているが

建設産業課長答弁

区からの要望が前年より減つて来ている。二十六年度は十三ヶ所の計画をしている。

国道一四三号青木峠新トンネル建設促進村民会議負担金について

建設産業課長答弁

各団体の代表を含め積極的に交渉していく勉強会等を行っていく為の資料作成等にあてる。

樹種転換事業補助金について

建設係長答弁

実施計画地は殿戸字若林地籍における樹令五十年の赤松林三ヘクタールを予定。

討論

反対討論なし

賛成討論 片山 順雄議員

歳入では景気低迷、人口減少等により村民税、固定資産税共に減少傾向にある中、二十六年度は、ふるさと公園(仮称)、道の駅関連、小学校体育館の屋根への太陽光発電システム等大型事業もあり、全体では前年対

比十・二%増の大型予算となっており、又継続事業の有害鳥獣駆除対策、松林健全化対策、松くい虫対策等が行われます。子育て支援、産業振興等にも配慮されており、今後とも限られた財源の中で有効な事業を選択され、堅実な財政基盤の確立を目指されて村民の期待に応えられる事を要望し賛成討論といたします。
以上全員賛成にて、原案のとおり可決しました。

議案第二十九号

平成二十六年度青木村別荘特別会計予算について

質疑なし

討論

反対、賛成討論なし
以上全員賛成にて、原案のとおり可決しました。



道の駅

社会文教委員会

平成二十六年第一回青木村議会定例会本会議で、社会文教委員会に付託された案件の質疑答弁は、次のとおりです。

委員会審議は、三月十二日に役場の会議室にて行なわれました。

議案第二十五号

平成二十六年度青木村一般会計予算について

社会福祉費補助金の臨時福祉給付金の内容は

住民福祉係長答弁

四月の消費税率引上げに際し、低所得者に対する適切な配慮をするため国が暫定的措置を行うものです。

診療所夜間休日診療補助の内容は

住民福祉係長答弁

診療所の夜間等診療体制を引続きとっていただくため、週一回程度を見込む。無医村にしないため、地元

で安心できる医療体制を確立する。

保育園の賄材料費の内容と、アレルギーマスターの園児への対応は

保育園長答弁

できるだけ地元の野菜を取り入れている。アレルギーマスターについては、席を離す、職員が一名就くなどとしている。

インクルーシブ教育システム構築モデル事業の進捗状況は

教育係長答弁

今年度長野県では青木村だけが実施した。カウンセラーの支援体制整備をし、保健師、保育士、教師と連携した一貫した支援を行った。来年度は、視察や重点研究、専門の先生の指導を受け専門性を高める予定である。

中学校費工事請負費の内容は

教育係長答弁

中学校体育館の屋根改修工事に併せてガラス戸補強工事を夏休み等を利用し約二カ月間予定している。

討論

反対討論なし。

賛成討論 川崎 攻議員

前年度比で二億四千三百五十万円、率で十・二％増となっています。

四月から八％に消費税が引き上げられますが、村として臨時に低所得者に対し給付金の支給、子育て世帯に特例給付事業をする。また高校生への資金繰出などを実施するとの説明もあり、さらに千曲バス通学者への半額補助、若者定住促進の拡充補助制度、子育て支援制度の継続等々があげられます。

今後、ますます少子高齢化が進みますが、住んで良かったといえる村づくり、日本一素晴らしい村づくりをめざし、村長、職員、村民が一体となっていく事を願って賛成討論とします。

以上全員賛成にて、原案のとおり可決しました。



青木村保育園給食室と給食の一例

議案第二十六号

平成二十六年年度青木村国民健康保険特別会計予算について

国民健康保険一人当りの医療費の長野県市町村での状況は

住民福祉係長答弁

当村は、二十三年度十三位、二十四年度六位と上位にいる。

討論

反対、賛成討論なし
以上全員賛成にて、原案のとおり可決しました。

議案第二十七号

平成二十六年年度青木村簡易水道特別会計予算について

滞納繰越分水道料等への対応は

村長答弁

基本、通水を止めないが、やむを得ない場合と悪質な場合を選別し支払い能力に応じ対処したい。

水質検査委託項目は

国保衛生・

上下水道係主任答弁

水質検査は十二項目実施。当郷公民館他五か所で

月一回検査し、浄水全項目は五十一項目です。二十六年年度は亜硝酸態窒素を追加検査する。

討論

反対、賛成討論なし
以上全員賛成にて、原案のとおり可決しました。

議案第二十八号

平成二十六年年度青木村簡易水道建設特別会計予算について

水源地を守るため公有地とすることについて

村長答弁

守ることは大切だが、公有地とする財源もなく管理も困難。県の条例で指定を受け水源を確保する。

討論

反対、賛成討論なし
以上全員賛成にて、原案のとおり可決しました。

議案第三十号

平成二十六年年度青木村特定環境保全公共下水道事業特別会計予算について

下水道施設の耐用年数は

住民福祉課長補佐答弁

本管の耐用年数は三十年。二十五年度から二十六年で長寿命化調査計画、二十六年で、BCP策定の委託をする。

討論

反対、賛成討論なし
以上全員賛成にて、原案のとおり可決しました。

議案第三十一号

平成二十六年年度青木村介護保険特別会計予算について

寝たきり・認知症老人介護慰労金の状況は

住民福祉課長補佐答弁

自宅で介護している方に支給するもの。施設入所者が増えており年々減少。

討論

反対、賛成討論なし
以上全員賛成にて、原案のとおり可決しました。

議案第三十二号

平成二十六年年度青木村後期高齢者医療特別会計予算について

質疑なし

討論

反対、賛成討論なし
以上全員賛成にて、原案のとおり可決しました。



滝川ダム



下水道終末処理場

第一回青木村 議会定例会

一般質問

堀内 富治議員

- 一、定住自立圏構想の実行と進捗状況について
- 二、医療体制の充実について
- 三、交通安全対策について



青木診療所



電動車椅子の安全講習会

一、定住圏自立構想の実行と進捗状況について

(問) この構想と狙いは、大都市への人口流出を食い止め、魅力のある地方を形成して行くことが基本であるが

村長答弁

合併しない村として期待する制度で事業をすすめたい。

(問) 上田市と事業の協定として十七事業をすすめて来たが

村長答弁

この事業は、積極的に実施して行きたい。医療、福祉、産業振興、環境、地域交通、観光、人材育成等。医療関係では、大きな成果があった。

(問) 財源措置について

総務課長答弁

二十六年より上田市と、青木村等が増額され、交付税として措置され、貴重な財源だ。

(問) 今まで実施して来た成果が勘案、見直しされるのか

村長答弁

協議会、懇談会で協議し内容について決定した。昨年の事業に加え、文化の交流、東京での観光や特産品のPR、運賃低減バスの範囲の拡大等を加え実施することになる。

運賃低減バスについては、村独自の課題として、上田市と協議している。上田市とは更に連携を深め実のある事業推

進をして行きたい。

二、医療体制の充実について

(問) 上小管内の医療体制は

住民福祉課長答弁

上小管内の病院、医院、診療所は、百二十七あり、産婦人科の体制も、順次改善された。輪番制病院は、管内に十病院あり、救急医療の受け入れもしている。

(問) 信州上田医療センターの体制は未だ不完全で、県下の状況の中でも、最も弱体だが

村長答弁

信州上田医療センターは、期待が大きい。現在医師は五十三人となり、今後、ガン等の重要拠点病院として頑張ってもらいたい。上田地域広域連合として、信州大学医学部と、連携を深め支援を続け、医師の確保に努めたい。

(問) 消防署の救急出動回数は増加していないが、病院の転院回数は減らない

村長答弁

重要事項として考えている。

(問) 青木村健康保健組合の医療費負担は、県下七十七市町村中五番目で、後期高齢者の医療費は二番に多い。残念だ。

村民の健康管理を真剣に考えるべきだが

村長答弁

健康保険組合も財政面で大変だ。村をあげて総合的に対処しなければならない事項だ。

(問) 青木診療所小川原先生には頑張ってもらっている。無医村にしないこと、又村としての支援と将来について

村長答弁

先生の信頼は厚い。無医村には、したくない。後継者についても考えられている。村として支援して行きたい。

三、交通安全対策について

(問) 青木村の交通事情と保育園、小、中学校での指導について

村長答弁

「死亡事故0」三千日達成でき、関係者の皆さんに敬意を申し上げたい。除雪については、職員に危機管理意識があり頑張ってくれた。通行も早く回復できた。

教育長答弁

青木小学校は、昨年交通安全優良校として県より表彰された。保育園、小中学校では交通安全教室も開催したり、交通安全マップを作るなど指導している。

山本 悟議員

一、雪害(除雪等)対策について 二、スケートリンクの再開を



雪害で倒壊したビニールハウス

一、雪害(除雪等)対策について

二月八日、九日「積雪約五十センチメートル」、十四、十五日「積雪約七十センチメートル弱」と経験したことのない大雪となりました。豪雪によりパイプビニールハウスの倒壊、農作物の被害等にあわれた皆さんに御見舞い申し上げます。

特に十五日は土曜日にもかかわらず情報収集、午前七時には職員の招集、雪害対策本部を早々設置。消防団、各区長等と連携を密にされライフラインの機能確認や除雪の手配、独居老人等へ安全確認等されました。

以上の確な状況判断と読み、先手先手の対応が二次的な被害の防止、精神的にもきめ細かな情報の提供が村民生活の安寧に寄与したと思います。

公僕として、当然と言えるかもしれませんが平成の合併に組することなく小さくとも光る顔の見える行政体を選んだ村民の総意の結果と信じます。村長、職員の判断、対応について村民の一人として感謝と敬意を表わします。各高速道路、一般道の通行止、車両の立ち往生。新幹線、中央東・西線、飯田線、小海線

運休等私鉄にも通行止や運休が続出しました。

農業施設等の被害は県全体六十七市町村で五十四億円余、ハウス損壊は八千三百棟余と大きな被害をもたらしました。

損壊したハウス等の撤去は県と村で五割(八割は将来交付税措置)残りは国が算定した一定額を補助する。

ハウスの再建は「被災農業者向け経営体育成支援事業」の補助率を三から五割へ残りの四割は県と村で(七割は将来交付税措置有)負担する。他に種苗や雪害による売上減に対する制度資金の貸し付け等手厚い。

(問) ケガ等人的被害はないか
総務課長答弁 現時点で人的被害はない。

(問) 倒壊ハウスの棟数面積は
建設産業課長答弁 棟数で六十九、七千三百三十三平方メートルになる。

(問) 水稻の育苗への影響、撤去再建の支援策は
建設産業課長答弁 撤去・再建は農水省の方針に沿って支援して行く。トンネル育苗も有り得る。

(問) 当初の総除雪費は五百二十五万円だったがどうなる

建設産業課長答弁

一・五倍から二倍位になる

(問) 警報の発令、降水量等大雪に限らず災害の対策本部設置のマニュアルづくり、農家の皆さんが耕作意欲を失わないための対策は

村長答弁

耕作放棄や離農につながらない様に不断の努力をして村民の安全安心に配慮してゆく。

二、スケートリンクの再開を

二十五年位前迄細谷区に水田に水を張って作った人工のスケートリンクが有りました。

リンクからは子供達の歓声が聞こえ賑やかで活気に満ちていました。地球の温暖化による不凍結や遊びの多様化、スケート人口の減少等衰退要因が考えられる。可能性があり夢だ。

(問) 再開できないか
教育長答弁 厳寒期一ヶ月位しか滑走できないので再開は厳しい。

村長答弁

教育長と同じ意見だが今の子供達の体力は落ちている。もつと外で活動して心身をきたえて欲しい。

沓掛 計三議員

- 一、平成二十六年年度予算について
- 二、ゴミの減量化対策について
- 三、保健センターの活用方法について



資源物の回収状況

一、平成二十六年年度予算について

(問) 今回の予算は、就任後初の年間通しての編成ですが、現在も国の厳しい財政の中、村は身の丈にあった予算をとということですが、編成方針及び公約に対しどのような予算編成ができたのか

村長答弁

各地区や団体からの要望を加味した中で、豊かな村づくり、安心安全を基本とし、長期計画を考慮するとともに一般財源の支出を少なくし、特定財源のあるものを優先した。また、尚、村の財政状況も脆弱であるので単年度予算ではなく長期的な中で財政運営を考えての予算編成を行った。

公約は、第五次長期計画におおむね沿っていますが、今ある限られた財源及びマンパワーの中では編成できたかと考えるが、計画した事業の中には財源の問題もあり今後の課題とした。今後まだ努力しなければならぬと考えている。

(問) 今後経常経費として確実に増えていく医療費・福祉関係費及び基金の見通しについて

村長答弁

医療費などは確実に増加していくものと思う。また、一般

財源を支出する各種事業については注視していかなければならない。基金については現状の基金は維持していきたい。

二、ゴミの減量化対策について

(問) このことは、今後広域で進めている焼却施設建設にも大きく影響してくる。村のゴミ減量化対策、特に生ゴミの堆肥化等減量対策などをどのように進めていくのか

村長答弁

ゴミの減量化の問題は大切なことである。村ではここ数年減っており、一人当たりの量も少ない。堆肥化については臭いや建設事業費の問題もあるため、現在村では個人に乾燥や堆肥化する器具の補助金を出して減量化を進めている。尚、多く出る施設などについては減量化に努力していただくようお願いするとともに、今後とも機会あるごとに広報等を通じて村民に減量化をお願いしていく。

(問) ビン類の色分けの必要性について

住民福祉課長答弁

現在三色に色分けをし出していただけであり、収集車三台でそれぞれ収集しています。しかし、山間部で量の少ない地域では一台で収集していま

すが、収集後会社で分別しリサイクル業者へ引き渡し再資源化しているため今後も同様に実施していく。

三、保健センターの活用方法について

(問) 五月よりラポートあおき内にある地域包括支援センターを役場庁舎へ移すということであるが、役場事務室でなく保健センターを活用して運営できないか、又、今の保健センターの活用状況について

村長答弁

役場へ移す理由は、情報の共有化や相談者のたらいまわしなどの問題点もあるとともに同様の施設が多くでき利用範囲が広がったためでもある。又、保健センターでなく庁内にした理由については、保健・福祉の総合的な活動をするにあり、相談対応については現在の相談室のほか必要があれば相談コーナーや保健センターも活用していく。関係職員とも相談した結果で決めた。

住民福祉課長補佐答弁

保健センターの利用状況については、年間二百八十五件ほど利用している。住民福祉課関係では七十%ほどであり健康相談業務が六十%です。

宮下 寿章議員

一、高齢者福祉の今後の対応について
二、学校での食育教育と道徳教育、いじめなどによる登校拒否等の実態について



ラポートあおき

一、高齢者福祉の今後の対応について

(問) 現在介護施設への入所は、現状順番待ちの状態であるが、さらに今後十年後は、団塊の世代が後期高齢者となり、非常に大変なものと予想される。

高齢化社会は二十六十年ごろまで続くといわれておりますので、将来を見据えた対応が必要と思うが、考えは

村長答弁

将来を見据えた対応をしていかなければと思っている。地域での支え合いをして健康で生きがいを持った村づくりをし、介護予防、保健福祉サービス、施設の整備が重要と考える。

現在のサービスは、巡回や訪問介護、居宅での介護、夜間の対応をしている。

質問の今後の対応については充分していきたいと考えていく。

(問) 事業推進室が新設されるが、地域や施設が一体化していくような将来設計は

村長答弁

企画サイドを強化していきたい。

二、学校での食育教育と道徳教育、いじめなどによる登校拒否等の実態について

(問) 登校時の朝食について全国の学生の内十四%が朝食を食べずに登校している現状だが、青木村では

教育長答弁

生活実態調査では、青木の子供たちの九十五%が毎日食べている。残りの五%の子供たちも週に一回程度抜くことはあっても食べない子はいない。

(問) 米飯給食の実態は

教育長答弁

保育園では米飯給食が週二回、米粉パンは月一回、小中学校では米飯給食が週三回、米粉パンは月二回である。

(問) 加工組合で米粉パンの製造を行っているが、村内米の消費拡大もあるので製粉機の導入は

村長答弁

現在JAで製粉しているが価格の問題もありホームページ等家庭での普及も必要と思う。

(問) 道徳教育の教科として取り入れが検討されているが青木村での道徳教育の方針は

教育長答弁

文科省ではまだ教科として取入れについて決定していないが、青木村では「村の子供は村で育てる」という理念のもと大勢の人たちが子育てにかかわっている。

そういったことが子供たちの自信と安心につながっておりシステムとして続けていきたい。

現在は、道徳の徳目に従って計画を立て、年間行っている。

(問) いじめ問題が多く取り上げられているが、青木村の実態は

教育長答弁

小学校では年二回、中学校では年三回アンケート調査を実施し、いじめと思われることがあれば即対応している。ほかに、年二回の相談週間に小中共行い子供たちと先生が一对一で対談し、相談に乗っている。

今後、携帯やコンピュータを使いたいじめが全国的に波及するだろうというのが心配である。

川崎 攻議員

一、二月十四日からの大雪に係る村の対応と今後の対策について

二、長野県にＩターンを希望する方のためのデータブックについて

三、村づくり懇談会での遊休農地の活用について

夫神にある文化財



大雪の中の庁舎



一、二月十四日からの大雪に係る村の対応と今後の対策について

(問) 今回の大雪での村長の一番の教訓は何ですか

村長答弁

歴史的な大雪で、自助、公助、共助が大切だ。今回は想定外の事が起きた。行政として村民の安全・安心・生命を第一に考えることだ。

(問) 被害状況は幸い、人的や家屋崩落はなかったが、今後の農業用ハウス被害等々の対策は

村長答弁

村の支援金を出したいが、国の細文が決っていないので、専決で決めていきたい。

(問) 雪害対策本部は十五日に設置、十六日に対策本部を解散しているが、千曲バス、公共施設が正常でないのに拙速ではなかったのか

村長答弁

対策本部は対外的に、実態は残って対応していた。今後は対応の検討をしていきたい。

(問) 大雪での村道の除雪は全て地区にまかせて良いと思っているのか

村長答弁

そうではなく、バス路線を優先して重機で除雪をした。

(問) 一般的に国道は国が、県道は県が、村道は村がと理解しているが、具体的には

村長答弁

国道一四三号は県が管理しているが、バス路線を優先して、千曲バス運行に一週間かかったが、村民生活を考えた。

(問) 今回の大雪での高齢者住宅への安全確認は何軒されたのか

総務課長答弁

訪問看護を必要とする方の八十名の安全確認をした。

二、長野県にＩターンを希望する方のためのデータブックについて

(問) このデータブックは「日本で一番いい県、都道府県別幸福度ランキング」で長野県は全国一位、「移住したい都道府県ランキング」でも全国一位、平均寿命男女とも全国一位、その他にも全国一位が三つもある。村長は、この資料を見たのか(感想は)

村長答弁

私もＵターン者だ。Ｉターンされる人にとって貴重な資料だと思う。

(問) このような素晴らしい資料の青木版を出版していただけないか

村長答弁

若者のＩターンをつくれなにか、若者定住の促進をめざし、ネット、ホームページでも発信している。広報も東京に送っている。今後さらに充実させていきたい。

(問) 「日本で最も美しい村」連合加盟で、青木村の素晴らしい所を発信していただけないか

村長答弁

村は「幸せリーグ」(荒川区)に入っている。ピットリとはいかないが、半分位カバーしている。

三、村づくり懇談会での遊休農地の活用について

(問) 村づくり懇談会で貴重な意見が出された。不作地面積が百五十二ヘクタール(遊休地五十二ヘクタール・耕作放棄地は百ヘクタール)村長は農業の活性化と観光を発信すると述べているが、具体策を示してほしい

村長答弁

非常にむずかしい問題である。調べてみたが、視点を変えてやっていく必要があると思う。

農産物の売れるものを作る事、地産地消・外消・鳥獣対策等を地道にやっていく事が必要。

金井 とも子議員

一、「村の便利帳の作成について」



青木村例規集と
他市町村の各種便利帳ガイドブック

二、「村の便利帳の作成に ついて」

(問) 「便利帳」(仮称)とは、村の方々に直結した村の事業、緊急な事、諸々の相談窓口、防災関連、届出や証明、手数料、子育てのための施策や教育、福祉事業などがすぐわかる要するに村民の皆様の手元に置いて、手軽く便利に使っていただく案内書です。

村には「青木村例規集」がありこれにより諸施策が行われているが、一般的にあまり目にする事ができない。

村の広報や情報通信の放送などでは、新規事業、改正時などその時々に応じ知らせているが、その際自分に関係ないと見落としてしまいがちである。

村にはいろいろなサービスがたいへん充実している。

子供の医療費などは、一度申請すると自動的に給付されるが、自動給付は少なく、手をあげて村に申請しないと給付されない。知らなかったという事で住民に不利が及ぶことはぜひ避けたい。

給付事業、健康検診、税金、わからない時の問い合わせ先など、村の事がこの便利帳一

つでほとんどわかる。作成の時に良い名称を付けていただきたと思う。

村外の方々にも、手軽に村の観光やサービスを知っていただくことは、何かと有利ではないか

HPなどいろいろな載せている市町村もあるが、高齢の方などパソコンが苦手のかたも多い。やはり印刷物がよいのではないか

一、村の皆様の役にたつ、このような便利帳の作成をされる考えは

二、近隣の市町村での作成の状況は

三、当村での過去の発行の経緯はあるか

村長答弁

役場からの情報提供をより丁寧にしたい。車座集会の折には、質問内容から情報提供の必要性を感じた。ホームページを充実しアクセスも一日平均二百三十七人あるが、パソコンを開けない方のためにも保存可能な「青木村くらしの便利帳」(仮称)を二十六年度作成の予定。

上田市は、合併の際の対応時作成の「生活ガイドブック」、東御市は、災害対応冊子のみを区長へ配布、長和町はない。

当村での過去の実績はない。

名称は担当職員で考えた。

(問) 発行予定があるとのこと、前向きでありがたい。具体的な内容は、予算はいかが

村長答弁

最少の費用、手作りを基本とする。ベテランの係長をリーダーとし、わかっている者が作るとわかり易くなる。逆転の発想の観点から、若手職員を登用し職員研修を含めてチームで作成。多くの市町村の先例を参考に中学三年生がわかるものを目指す。具体的内容は、役場組織、業務、議会、届出、諸証明、税金、健康保険、年金、介護保険など福祉、上下水道、環境生活、教育、医療機関等々の予定。予算は二十六年度十万円を計上。広告料を費用の一部に充てたい。村民にわかり易いことをモットーに製作する。



本会議討論

平成二十六年 一般会計予算

賛成討論

川崎 政議員

前年度比で二億四千三百五十万円、率で十・二%の増となっています。

主なものとして、ふるさと公園の整備事業・小学校体育館屋根への太陽光発電機の設置があげられます。四月から八%に消費税が引上げられますが、村として、臨時に低所得者に対し給付金の支給、子育て世帯に特例給付事業をする。又、高校生への奨学資金繰出金などを実施するとの説明、他にも千曲バス通学者への半額補助、若者定住促進の拡充補助制度、新たに住宅リフォーム制度の新設、人間ドッグ受診拡大、子育て支援制度の継続等々が上げられます。

今後、ますます少子高齢化が進みますが、住んで良かったといえる村づくり、日本一素晴らしい村づくりめざして村長、職員、村民が一体となっていくことを願って賛成討論とします。

平成二十六年 一般会計予算

賛成討論

山本 悟議員

村長の編成理念、「取捨選択」と「元気な村づくり」を目ざされ「ゆるやかに回復している」景気判断や民間のベースアップ等追い風の中編成された。

歳入、歳出共、紙面の都合で数字的なものは同僚議員にお願いしたいと思っています。昨年の歳出、二十五年予算審議の中で財産管理費「委託費」の「雨量等監視システム定期点検委託料三十四万七千円について。

二十三年、役場屋上、入奈・弘法の各々公民館に導入された。

異常気象が叫ばれ、ゲリラ豪雨や想定外の大雨による災害発生が危惧される中、リアルタイ

ムで庁内に最新の雨量等のデータが自動的に送られてきます。

防災上この新鋭システムは有効と思います。定期点検の年一回の必要性。点検費用の中の人件費一人一日六万円、高所作業車オペレータ付一日七万円、前日から東京より来ての宿泊代二人で一万五千元、交通費二人で三万円等々です。私から見ると単価がかなり高いと思います。

二十五年三月の予算編成時に当時の責任者には次年度は「相見積り」等透明性を高めて計上されるよう理解していただきました。しかし二十六年度は前年比一万円高の三十五万七千円となりました。一般会計全体はメリハリの有る予算と評価しますがこの委託費は、今後執行段階、来季に生かされることを期待し苦渋の選択として賛成討論とします。



雨量監視システム

委員長報告

青木村ふるさと公園(仮称) 特別委員会

平成二十五年九月定例議会において、北信セメント跡地に計画している公園整備についての調査研究として、議員十名による「青木村ふるさと公園(仮称)建設関連事業特別委員会」を設置しました。

これまでに三回の特別委員会が開催され、他市町村の公園整備の状況を視察し、村民の憩いの場として、また、集いの場として、将来にわたって親しみ、活用できる公園施設のあり方について考えを聞き、委員会内で議論を深めました。その経過については十二月三日、第一回目の特別委員会では、設計委託業者の選定の経過、契約等についての確認と防災機能の検討をしました。

十二月十三日には、上田市の「道と川の駅」、佐久市の「市民交流ひろば」、松川村の「中央公園りんりんパーク」の三箇所を視察し、具体的な利活用の調査を行いました。

平成二十六年一月十日には、公園、造園など幅広い分



野で活躍されている進士五十八氏の特別講演があり特別委員会としても聴講しました。

一月十六日には、第二回目の特別委員会を行い公園整備の全体スケジュールについて、細部について村から説明を受けました。

今後公園整備を進めるうえで国道横断者の安全確保、道の駅等の既存施設との有機的な連携、整備後の維持管理や村民の憩いを提供する場として親しまれる公園整備を要望し中間報告とします。

『青木村ふるさと公園(仮称)建設関連事業特別委員会は、この事業が終了するまで継続されます。』

あ 議会の動き



平成 25 年度 第七回 村づくり懇談会 村づくり懇談会が、二月九日青木村文化会館二階講堂で開催されました。

青木村の今後更なる魅力ある村づくりを進めて行くために、青木村に住んで良かったと実感できる「明日の青木村のあり方」について語る村づくり懇談会が、

青木村議会と青木村女性団体連絡会の共催で行なわれ、今年で第七回目を迎えます。

今年のテーマは「青木村ふるさと公園(仮称)整備について」「遊休農地の活用について」「ゴミ問題について」を共通テーマで行い、参加者の皆さんから多くの意見や提案が出されました。関係するテーマ毎に役場の井古田総務課長、横澤建設産業課長、花見住民福祉課長から村の現況について説明をしその後、八つのグループに分かれて話し合いをしました。

話し合いの内容は、ふるさと公園(仮称)整備については、道の駅と直結し、農業体験等を通じて集客に結びつくような公園整備を、太陽光を活用するなど

特徴的な公園整備を、また災害時に防災機能を備えた公園等の意見も多く出されました。

二番目の遊休農地の活用については、鳥獣害防護柵の早期完備と、貸し出しできる農地を明確化することが必要、また情報を都会へ向けて積極的に発信し続けることの重要性等が出されました。

三番目のゴミ問題については、ごみとしてではなく資源と意識する。地区毎にごみの減少について話し合うべき、生ゴミの減量のため、ダンボールを使った堆肥作りを等の意見がありました。

フリーテーマでは、高齢者が増えている



会場の文化会館では活発な意見交換が行われました

長野県地方自治政策 課題研修会

第九回を迎えた長野県下の議員を対象とした長野県地方自治政策課題研修会が、一月十七日に長野県庁講堂で行なわれ、私達、議員も参加した。講演は、

一、「信州山の日(仮称)制定について」と題して、観光議員連盟会長の古田英士氏と山岳保全対策議員連盟会長の宮澤敏文氏

二、「道州制について」と題して、早稲田大学政治経済学術院の小原隆治教授でした。

一、「信州山の日制定について」は、長野県独自の「山の日」の制定に向けて、県議会が平成五年に「海の日、山の日制定」に関する意見書を議決し取組が開始されている。趣旨は、長野県民共通の財産であり、貴重な資源である「山」に感謝し、「山の恵み」を将来にわたり持続的に享受していくため、「山」を守り育てながら活かしていく機運の醸成の機会として、長野県独自の「山の日」を定め、平成二十六年度から施行するものである。

二、「道州制について」は、

(1)として、道州制とはなにかで、基本的な特徴、最近の合意のおおよそのイメージ、道州の区域のイメージの説明。

(2)として、過去の道州制をめぐる動きとその背景としての説明。

(3)として、最近の道州制をめぐる動きとその背景。

(4)として、道州制はなにが問題かでは、自治派の論理と行革派の論理、平成大合併や三位一体改革の教訓等の説明であった。

道州制については、青木村議会も研修会、勉強会等により理解を深めているところである。長野県町村会は、道州制導入に対して断固反対するとしており、青木村議会においても、道州制導入に断固反対する意見書を平成二十五年、第三回定例会において議員発議により全員賛成で可決し、各機関に提出してあります。

ICT活用授業参観

平成二十三年度に採択された総務省「絆プロジェクト」によるICT授業の公開が小学校で行われ、議会でも全員の参観を行



ICT授業の様子

いました。

小学校では、四年生以上の教室に電子黒板と呼ばれる大型モニターが一台つと、生徒一人に一台のタブレットパソコンが配置されております。

これまで三年間の稼働をしてきており、現在は、ICTを活用した「学力向上」、「児童の情報活用の実践力向上」、「教職員のICT活用力の向上」に取り組んでいる。

当日四年生の教室では、電子黒板に出題された算数を生徒の手元のタブレットで答える授業、また五年生の教室では歌舞伎を題材に電子黒板でのストーリー

よりの問題をタブレットで答える授業。

六年生は、パソコン教室で遠足時等の写真をパソコンに取り込み、文字の挿入など本格的ともいえる操作を行っていました。

「インタラクティブスタディ」による基礎・基本の定着を目指した教科学習支援や漢字・計算ドリル、毎日の五分間ドリル、資料提示やデジタル教科書の活用も行っているという。

ICT活用の実践について小学校のホームページで「あおきっ子ブログ・ICT活用ブログ」に於いて写真と概要を掲載してま

青木村及び上田市 共有財産組合定例会

二月二十一日、平成二十六年

度組合議会定例会が開催され

ました。

提出案件は、平成二十五年度補正予算と平成二十六年年度予算でありました。補正額には変更なく財源の振替で、県補助金と立木売払い金の増により基金からの繰入金を減額です。新年度予算については、歳入歳出それぞれ一千六百九十九千円とするもので、主な事業は所有林の

林業振興にかかる事業費であります。

又、二十六年度の事業予定は、下刈約十二ヘクタール、除間伐十八ヘクタール、その他獣害防除・枝打や補植事業が実施されることになりました。

平成二十六年二月 上田地域広域連合議会議 定例会の開催

上田地域広域連合議会議定例会が平成二十六年二月二十四日、上田市丸子地域自治センターで開催されました。

最初に母袋連合長からあいさつがあり懸案となっている資源循環型施設については、地域振興など周辺の土地利用計画も含めて、し尿処理施設「清浄園」の敷地を建設候補地とする提案に対して、地元自治会をはじめとする関係八団体が構成された「資源循環型施設建設対策連絡会」から出された質問書に対しての回答について、現在精査及び今後の対応を検討されているとの事であります。

また、地域医療対策については信州上田医療センターにおける分娩の再開については、産婦人科医師三人体制による本年四

月からの分娩再開に向け準備を進める等との報告がありました。

一般質問では、東御市の櫻井寿彦議員が、斎場の整備について、上田市の久保田由夫議員が介護認定調査及び介護認定審査会の設置と運営等について、上田市の松山賢太郎議員が広域的な観光振興に関する事務についてそれぞれ質問しました。

平成二十六年当初予算は、一般会計、特別会計合わせて総額五十三億八百六十一万円で、前年度比十三・二%の増となっています。一般会計では、大

星、依田窪両斎場の火葬炉設備等修繕のほか、丸子、東部クリンセンター延命化のための施設、設備修繕等が主な要因で、特別会計では、消防特別会計が高機能消防指令装置更新整備事業、消防本部庁舎耐震化及び増改築事業の本格着工に伴う増額となっています。

一般会計及び特別会計は、原案通り可決されました。

第十八回 長野県町村 議会議長会定期総会

二月二十五日、第十八回県町村議会議長会定期総会が長野市

で開催されました。

はじめに久保田会長より、二月の大雪被害に対する早急な対策を講じる要望を緊急要望として、県選出国會議員に行なったこと等のあいさつがありました。

つづいて、全国町村議会議長会の表彰伝達があり、町村議会特別表彰の南箕輪村議会他自治功労者の伝達がありました。

その後、平成二十六年度事業計画及び歳入歳出それぞれ二十四万四千円とする一般会計予算が審議され原案のとおり決定されました。

総会終了後、株式会社「地元カンパニー」社長の児玉光史氏による「故郷を離れた若者を活用して、故郷を活性化しよう」と題し、地元若者を活用した故郷の活性化の取り組みについて講演が行なわれました。

又、当日は、県で計画されている信州首都圏総合活動拠点「しあわせ信州シアスペース(仮称)」の実施計画について、県より報告があり、現在の東京観光情報センターを移転し、東京銀座にオール信州活動拠点として、又、コアな信州ファンを増やすことを目的に、この夏にオープンすることの報告がありました。

議会目誌

2月

4日／上田地域広域連合議会代表者会(議長)
4日／公民館運営審議会(議長)
6日／上田地域広域連合議会代表者会(議長)
9日／村づくり懇談会
14日／ICT 授業見学
14日／青木村ふるさと公園(仮称)
建設関連事業特別委員会
21日／財産組合議会(財産組合議会議員)
23日／あおき農産物直売所第9回通常総会(議長)
24日／上田地域広域連合議会(正副議長)
25日／議長会定期総会(議長)
26日／上田地域広域連合議会(正副議長)
27日／議会運営委員会(議会運営委員)
28日／例月監査(監査委員)

3月

6日～14日／3月定例議会
18日／中学校卒業式(正副議長・社会文教委員)
18日／議会運営委員会(議長・協会運営委員)
19日／小学校卒業式(正副議長・社会文教委員)
21日／保育園卒園式(正副議長・社会文教委員)
24日／小学校PTA 慰労送別会(正副議長・社会文教委員)
25日／青木村防災会議(議長・総務建設産業委員長)
26日／農業再生協議会(議長・総務建設産業正副委員長)
27日／例月監査(監査委員)
27日／老人クラブゲートボール部会定期総会(議長)

28日／臨時議会

28日／議会報編集委員会(議会編集委員)

青木中学校入学式



4月

2日／保育園入園式(正副議長・社会文教委員)
4日／小学校入学式(正副議長・社会文教委員)
4日／中学校入学式(正副議長・社会文教委員)
11日／議会報編集委員会(議会編集委員)
15日／村松神社春の例大祭(議長)
20日／東御市発足10周年記念式典(議長)
23日／議会報告会：当郷地域交流センター
24日／議会報告会：中挾防災研修センター
25日／議会報告会：下奈良本ふれあいセンター滝の館
29日／老人クラブ連合会総会(議長)

今後の予定

5月

10日／商工会通常総会(議長)
12日／上田地域広域連合議会代表者会(議長)
27日～28日／全国町村議会議長・副議長研修会(正副議長)

住民の声



つながりを持って

女性団体連絡会会長 小林北コ

日頃私達女性団体連絡会の活動に対して、御理解、御協力ありがとうございます。会員の皆様のお力添えにより、今日までに至っております。

最近携った事で、「信州ええところ村」で取り組んだカンボジアよりのホームステイです。日本文化、地域との交流とありましたが、新しい事業の取り組み、村長とそのスタッフの皆さんの御尽力も素晴らしいと思いました。事前説明会はあったものの、対面した時は「お父さん」「お母さん」と言ってくれて、カンボジア語しか分らない彼らでしたが、お茶、ごはん等ローマ字ですぐに覚え、沢山メモしていました。優秀な限られた大学生でした。最高の観光スポットだという道の駅や、農道からの景色に感激していました。遠く雪をいただいた山脈や近くの里山、雪体験にはとてもはしゃいでいました。そして三日目の夜の歓送会、きらびやかな民族衣裳でのプロなみの舞踊に感心するばかり。持参した民族楽器の幻想的な調べに全員が踊りの輪の中にいました。アンコール遺跡を大切にしている面もみられました。全行程八日間の内、半分が青木村、彼らと心通わせた胸熱い三日間で、青木村を胸いっぱい、全身にため込んで翔いて行きました。冊子「交流のとびら」になぐその先に限りない可能性とありました。私達は自然体で迎えてやれば、必ず笑顔になれ、青木村が広く発信できると思いました。日帰り農村体験から始まった「信州ええところ村」も先輩方の積み重ねもあって、ここまで来たいと思いますが、受入れ家庭がもっとふえればいいねと言っておられました。青木村の景観を私達は守って行くこともっと自信をもって広めて行きたいと思っています。

私にはとても重責すぎたこの会ですが、あと任期もわずかながら歩む事で沢山の感激を得られ、いろんな行事が出来ました事に感謝しております。

編集後記

地球温暖化に伴う異常気象や想定外と言われる災害が多く発生している昨今、村でも昨年の台風や、この二月の大雪では農作物や日常生活などに大きな影響が出ました。特に稀な大雪に際しては今までの除雪体制では対応しきれませんでした。これから、このような自然災害がいつあり得るかわかりません。

また、今世紀末には、気温が五度前後上昇すると予想されており、暑さによる健康被害や農作物への影響など生活全般が脅かされてきそうです。村では「安全安心な村づくり」に向けて行政を進めていますが、行政のみで対応できないことも多くなり、区長さんはじめ村民皆さんの協力体制作りが必要であるとともに、「備えあれば憂いなし」との言葉のように各自で対処が必要かと思っています。

北村村長予算が組まれ平成二六年度が始まりましたが、災害のないおだやかな年でありまますう祈らずにはおられません。

議会報編集委員会

委員長 川崎 攻
副委員長 居鶴 貞美
委員 金井とも子
宮下 壽章
沓掛 計三
片山 順雄